

三岳の一なり、其嶽の絶頂に、益救神社あり、一品法壽權現を祭れり、勸請の年月詳かならず、毎年秋八九月の間、土人參詣する者多し、婦女十四以上の者は禁制なり、絶頂に一平石あり、其高さ二尺、横三尺、長さ一間ばかり、其石上一穴の周廻一尺許、深さ二三寸なるあり、水泉常に湧出して溢れ、古より四季共に涸ることなし、其水中に蚯蚓二、常に居れり、土俗神の使属なりといふ、嶽神に參詣する人、其水と蚯蚓とを去り置に其歸る比をひ、素の如く水盈満して、蚯蚓亦居れるところ、又絶頂より山下十四五町の所に一川あり、水源、嶽の東西より出、南面へ流る、即ち栗生川の水源なり、川幅一二間、深さ一尺餘、嶽神に參詣する者は不淨を清むるとして、必ず此河水に浴するとかや、此岳宮浦長田の二岳より、形勢少し尖小なり、

○益救神社 前文に見ゆ、

**珊瑚沙渚** 栗生の河口、西の方一町許にあり、海渚の邊、皆白沙にて、珊瑚沙其中に相雜れり、海底珊瑚あるを以て、海風強く吹たる後は甚多し、紅色にして其形種々あり、一枝、二枝、三枝、なるもあり、又は枝なきもあり、長さ一二分なるもあり、又は其より長きもあり、其沙上を望むに、紅白相雜て、珠璣瓊瑤を碎き敷きたるが如し、拾ひ取るに、頃刻の間一升も得るべし、盆石の沙などに用ゆるには最好し、

**長田川** 長田村にあり、村下に長田川ありて、海に入る、水源坪切山より出づ、東より西へ流れ、海まで凡そ四里餘、川幅六十間ばかり、村落邊、水勢栗生川より少し小し、河口の邊、水底白沙にて、西北風強く吹ける時は、沙土にて河口を塞ぎ、大船の出入、頗る自由ならず、村落は、河口より四五町許上流の兩岸にあり、村口西岸に遷所、北岸に官倉あり、水田川を夾めり、島